

KENTA Report

鈴木健太 県政レポート 2021冬号 vol.10

秋田の未来のイメージを ともに想い、動く。

皆様大変ごぶさたをしていました。

最近あまり目立つ機会はありませんでしたが、私は元気です。

新型コロナの感染状況は、県民の皆様のご協力のおかげでかなり落ち着いてきました。

昨春以降、この国難を前に、政治の至らない点や無力感を感じる事が何度もありましたが・

私なりに、困っている方々の声をできるだけ集め、これまで微力ながら県政へと反映してまいりました。

特に苦境にある飲食業とその関連産業への支援。生活困窮者への生活福祉資金の取扱い要領改善。

そしてゼロに近い感染者数でも社会・経済活動をなかなか正常化しようとする県に対し、

厳しすぎる基準の見直しを提言し、実現できました。

今年は様々な首長選挙や衆議院選挙が行われ、

県内外で「世代交代」を求める声が高まってきているように感じます。

まさに激動のコロナ時代を乗り越え、アフターコロナの秋田にしっかりと貢献できるよう、

まずは自らの政策能力や信望を高めるべく地道に努力を重ねていきたいと思えます。

これからもご指導・ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

鈴木健太 46歳

秋田県議会議員
自民党秋田県連 政務調査会長



県政報告会

予約不要 参加無料

12月4日(土) 15:30~16:30

西部市民サービスセンター(ウェスター) / 定員35名

12月5日(日) 15:30~16:30

南部市民サービスセンター(なんびあ別館) / 定員35名

12月11日(土) 15:00~16:00

北部市民サービスセンター(キタスカ) / 定員30名

12月18日(土) 17:30~18:15

東部市民サービスセンター(いーぼる) / 定員65名

これまでの活動報告やウラ話などをお話しします。お近くの会場へお越しください。
お越しの際はマスク着用をお願いします。※新型コロナウイルス対策のため、お席に限りがありますことをご了承下さい。

鈴木健太のプロフィール

昭和50年生まれ。新聞販売店の息子。小学校から高校まで野球部。19歳で阪神淡路大震災を経験したのち京都大学法学部へ入学。大学在学中は料亭、バー、建設作業や引越し業など様々な現場で働く。大学卒業後陸上自衛隊に幹部候補生として入隊し、主に長崎県の第一線部隊で勤務。平成15年東ティモールPKO、同17年にイラク人道復興支援活動へ派遣。同18年退職し、妻の地元秋田市に移住。無職で1年間勉強し司法書士試験に合格。現在は司法書士法人岡田事務所の共同代表を務め、多くの相続事件や成年後見業務に関わる。妻、子ども4人+ネコの7人家族。

現在の役職 ※令和3年11月末

- 秋田県議会 令和3年度決算特別委員長
- 自民党秋田県連 政務調査会長
- 秋田県エアロビック連盟 会長
- 秋田県防衛協会 副会長
- 秋田県議会防衛議員連盟 事務局長
- 秋田県議会トラック輸送振興議員連盟 事務局長
- 秋田県都市計画審議会 委員
- 秋田県キッチンカー協会 顧問
- 秋田県eスポーツ協会 コアメンバー
- スペシャルオリンピックス日本・秋田 顧問
- 日本バーテンダー協会秋田支部 顧問
- 秋田市PTA連合会 事務局次長
- 秋田市消防団 城東分団赤沼班長
- 秋田市立城東中学校 PTA会長・同柔道部親の会
- 秋田市立広面小学校 女子ミニバスケットボールスポーツ少年団親の会
- 秋田市少年指導員
- 東部地域振興発展連絡協議会 顧問
- 広面地区商工振興会 副会長
- 広面地区体育協会 副会長

けんた家の現状

- ▶ 健太(46) / 昨年末より4キロ減量にてお腹の弛み解消に成功! 周囲からは「やつれた」「さらに貫禄がなくなった」と大不評。
- ▶ 妻(44) / 衰えぬパワー&スピードで他の家族を圧倒。今やその権威は最高潮に達し、思春期や反抗期などは兆しすら許されない。
- ▶ 長女(高3) / 家庭内の喧騒をよそに、ひたすら穏やかに静かに受験勉強に専念。しかし18年一緒に暮らした我が子がついに家を…ウツ(涙)
- ▶ 長男(中3) / 捕手として大番狂わせで中総体全県大会へ。そして初戦で大敗! からの苦手な受験勉強で格闘中。はたして運命は…
- ▶ 次男(中1) / 父の『マンガの柔道部物語をさりげなく置いておく』という作戦が見事にハマリ、中学から柔道デビュー。今のところ体格だけはエース級。
- ▶ 次女(小5) / スポ少バスケットと漫画とお絵描きで平和に暮らすおねえさん。いつも兄たちのバ○騒ぎをクールな目で見つめています。
- ▶ ネコ(推定2.5才) / 引き取ってから1年半。相変わらず都合の良い時だけ甘えてくるネコらしいネコだが、妻の上位に位置するために序列は最上位。



Official HP <http://suzuken-akita.com>

Facebook <http://facebook.com/kenta.suzuki.g1024533>



発行/鈴木けんた 事務所
〒010-0951 秋田市山王6丁目9-19 (事務局)
TEL 018-883-0605 FAX 018-838-0785
E-mail kidsfuture@suzuken-akita.com

当たり前のくらしを取り戻す

コロナ禍は、経済だけでなく私たちのふだんの生活も台無しにしてきました。本当に残念なのは子どもたちの修学旅行やスポーツの大会など「一生に一度の思い出」が失われてしまったことです。また大人のスポーツイベントや文化鑑賞など、**当たり前のくらしが感染予防のために奪われ**続けてきました。

これらは人の命に代えられないことは言うまでもありません。が、ワクチン接種が進んで重症者や死者がほとんど確認されなくなった今、いつまでこのような生活を続けていけばよいのか？ そろそろ医療体制を確保しながらくらしを正常化していく検討をすべきではないか？ 9月議会の総括審査(10月4日)ではそのように主張しました。

1週間の新規感染者	秋田県の「レベル」	国の「ステージ」	国の病床使用率の基準(一部)
0人	1 注意喚起	I・IIは特に指標なし	
1~6人	2 強い注意喚起		
7~24人	3 協力要請		
25~49人	4 要請		
50人以上	5 強い要請・命令		
15人/10万人≒約142人		III	最大確保数の1/5以上、現状の1/4以上
25人/10万人≒約237人		IV	最大の1/2以上

令和3年9月議会 総括審査資料(提出:鈴木健太)

その頃すでに本県では感染者数が激減していました。しかし県はそれまでずっと「4」に据え置いていた感染警戒レベルをようやく「3」に下げたものの、様々なイベントや会食なども最大限の自粛ムードに覆われていました。私は県独自の警戒レベルが、国の基準である「ステージ(I~IV)」に比べて格段に少ない感染者数を目安としていることを指摘。そして「重症化リスクも低下している今、わずかな感染者数で一喜一憂するのはやめ、真に重要である病床使用率を基準にすべきだ」と求めました。10月27日、県は独自の感染警戒レベルを見直し、**感染者数の目安を**



詳しくはこちら
(鈴木けんたHP)

緩和するとともに病床使用率をレベル判断の基準に加えました。やはりしっかりとした論拠をもって建設的に提案すれば、実務家集団である佐竹県庁は理解してくれるということを再認識したものです。

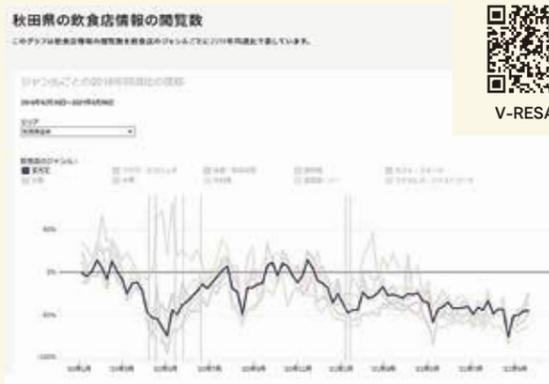


9月議会総括審査
(録画中継)

秋田の食文化を守りたい

コロナ禍では本当に多くの業種がダメージを受けました。昨春の全国一斉緊急事態宣言の頃、私たちは得体のしれない感染症の恐怖におびえ、あらゆる経済活動が停滞したことを覚えています。そしてそれから1年以上が過ぎ、今はコロナ禍への対応に成功し業績を回復させている産業は少なくありません。しかし一方で、**観光や飲食など「人が集まる」ことが本質である業種は、企業努力にも限界があり、長引くコロナ禍を乗り越えられず休業や廃業に至ってしまったお店は相当数に上ります。**

私も昨年より県議会では「コロナ禍による産業構造の転換」を唱え、企業の規模拡大や業態転換への支援を求めてきました(令和2年度当初予算にて事業化)。しかしその際も、**秋田の文化を織りなす飲食文化だけは決して経済効率最優先ではなく、小さくとも個性のあるお店が存続**



(資料) 内閣府 V-RESAS

できるよう、秋田の文化として行政がしっかりと守らなければならないと強調しています。

内閣府のビッグデータによる経済情勢分析システム「V-RESAS」によると、**秋田県の飲食業は首都圏各県よりもむしろ冷え込んでおり、しかも休業・時短要請による支援金の支給等もほばないため、本当に深刻な状況に追い込まれています。**様々な論拠をもとに、飲食業界への支援を業界団体の皆さんと県に要望し、まもなく支給が始まる「**秋田県飲食業等事業継続緊急支援金**」を実現することができました。財源は国の新型コロナ対策の一つである地方創生臨時交付金です。この支援金は、飲食店だけでなくそこに食材などを卸したりクリーニングなどを受注したりする関連業者も広く対象としました。また一律同額でなく売り上げ規模に応じた段階的な支給額とするなど、いただいた様々な声を反映したものとなっています。

怒られてばかりの私が

イージス・アショア問題、昨年の総裁選における党員投票の問題、そして県知事選への出馬検討。与党の若手として積極的に発言し動いてきた結果、当然ですが自民党の先輩方には怒られてばかりのここ数年でした。そろそろ干されるだろう…と思っていた今春、なんと自民党秋田県連の政務調査会長(いわゆる四役の一つ)という役職をいただくことに。これはいわば県政与党の政策責任者という重い立場であり、驚き恐縮すると同時に、「これは県政を大きく動かすチャンスなのではないか」という期待も抱きました。



これからの秋田

「分厚い雲から一筋の光が見え始めているような感じ」、これが私がいま抱く秋田の未来のイメージです。

未来は明るい!などという気休めは言いません。全国トップの人口減少や経済低迷など、現状は明らかに苦しい。しかし、近年の世界情勢やコロナ禍による潮流の変化を考えると、私たちの行動次第でこの苦境を打破できるチャンスはいま間違いなく到来しています。

ただし好機を目の前にしても、「とは言ってもどうせ無理」「結局秋田には難しい」という精神風土が変わらない限りは、一筋の光など簡単に消えてしまいます。国や県庁だけに任せていてもチャンスは生かせません。民間企業も、一般県民のみなさんも、一人一人が少しずつ気

持ちと行動を変えてこそ難局は打開できるものだと思います。

政治がこうした皆さんの行動を後押しすることができれば、未来は必ず開けていきます。私はその一助になれるよう全力を尽くします。

打開のチャンス

- ①食糧危機は農業県の地位を向上させます。
- ②脱炭素化のトレンドは、再生可能エネルギー産出県に極めて有利に働きます。
- ③密から疎へという考え方の変化は、大都市から地方に人を戻します。
- ④IT技術の進歩は、どうしてもなかった「遠隔地」という不利を補います。

ともに取り組むこと

- ①農家の皆さんにはしっかり儲かる体制を作り上げてもらう。
- ②洋上風力発電事業の利益を地元で最大限受けるため、県内企業に挑戦してもらう。
- ③首都圏へ出ていった秋田県人に「これなら秋田に戻ろう!」と思ってもらう。
- ④全国や世界の仕事を受けるIT企業に秋田へ拠点を設けてもらう。

まずは会派県議26人の政策立案能力を高めるため勉強会を増やすこととし、地方自治法や財政などの基本に立ち戻る勉強会やDXなど新しいテーマに関する研修を次々と行ってきました。そして上記の飲食業支援要望では会派県議団や代議士の協力をいただくことができ、議会での提案もかなり多くを採用していただけるようになるなど、**政策実現力という点では新人の頃に比べて飛躍的に成長したように思います。**やっぱり政治に大きな変化を起こすには一人じゃダメだと痛感しています。

決算委員長として7791億円を認定



秋田県議会の今年度の決算特別委員長を拝命し、新型コロナ対策などで7791億円に増額された令和2年度決算(前年度は6628億円)を認定しました。

「予算を通すのがゴール」となりがちな行政と議会ですが、**本当に大事なのはお金をかけた施策・事業が本当に成果を出せたのかどうか。**最初から認定ありきでなれ合いの審議をしても意味はありません。

「私たち議会に与えられた決算認定という権限をこれから行使する。前年度の予算がどう使われてどのような成果を出せたのかをしっかりと審議し、来年度予算に活かしていく」と冒頭のあいさつで宣言したうえで、10人の委員会メンバーとともに13部局・合計約30時間に及ぶ集中審議を行い、厳しい指摘も多数出る熱のこもった委員会となりました。これらを令和4年度予算編成に活かし実効性のある施策・事業を求めてまいります。

12月3日、一般質問にたちます。

議会HPの録画中継をご覧ください(12月6日頃より視聴可能の予定)

- 1 新ふるさと秋田元気創造プラン
(1) 目標設定 (2) 賃金水準の向上 (3) 少子化対策
- 2 医療的ケア児者への支援
- 3 自閉スペクトラム障害者への支援
- 4 コロナ禍における転職支援
- 5 民間資金の活用
- 6 水産業の振興
- 7 パートナーシップ証明制度
(項目は若干変更されることがあります)



秋田県議会 録画中継